



## 第9号

平成29年1月16日  
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司  
(千葉県立柏高等学校校長)

平成28年10月3日に開催した進学向けワーキンググループ会議に続き、10月26日には企業関係者・工業系高校校長等により就職向けワーキンググループを開催し意見交換を行いました。いただいた意見の一部を紹介します。

### 第2回ワーキンググループ会議

- 1 日時 平成28年10月26日(水) 14時～16時
- 2 会場 千葉工業高等学校
- 3 出席者 企業関係者 7名  
工業系高校関係者 8名
- 4 協議題 「基礎学力とコミュニケーション能力とは」

#### 企業における採用試験の状況

##### 【企業】

- 県内の生徒は総じて面接点が低い。当社は面接点を重視して合格者を決定するが、県内の生徒は面接で合格点がとれない。  
筆記試験では国語、数学、英語、専門科目を実施する。国語は50点はとれるような問題を想定して作るが県内の生徒は50点に届かない。
- 専門科目の出題レベルは基礎的な範囲である。例えば、化学の場合、高校の内容は出ていない(中学生レベル)。危険物の試験の場合、乙4類だとその物質がどんな特徴があるかが中心になる。機械、電気についても計算式はごくわずかである。2年生終了時までのものは出していない。
- 県内からしか採用していない。基本的には面接、SPIと作文を実施している。成績は調査書を見ればだいたいわかる。道徳5、体育5、休まない生徒でどちらかと言うと体育会系の部活をやっていた生徒の方が好かれるのは事実と感じる。  
各学校の進路指導の先生とのコミュニケーションは非常に大事である。  
工業高校からの生徒が欲しいが受験してくれる生徒がいない。

- 筆記試験は大事だが、面接を重視している。県内の生徒は、目を見て話せない生徒が多いと感じた。筆記試験である程度の点数を取ってもらえば面接でフォローして採用することがあるが、さすがに厳しいと思われる生徒は、県外の生徒に比べて県内の方が若干多い。
- 中小企業は、新卒に来て下さいと合同説明会をやっても新卒は来てくれない。100社以上の千葉商工会議所工業部会の中で筆記試験をやっているところはほとんどなく、面接だけである。  
採用試験のためのノウハウ等はどうでも良い。要は人間性であり、入社して続くか続かないかだ。

## 面接でのポイント

### 【企業】

- 面接を通して、入社後、職場でどのようなコミュニケーションをとれるのかが見たい。  
生徒は、用意している答えは、目を見てしっかり自分の言葉で大きな声で話をするが、ちょっと突っ込んだ質問にはすぐ下を向いてぼそぼそと始まる。それが県内の生徒には極めて多い。  
どの様な生徒が欲しいかと問われた場合、「道徳5、体育5、あとは3で結構です」と先生方にはお願いしている。人間性、全てに対し意欲的な生徒を採用している。
- 面接は生徒が入室する時の姿勢から見ている。「現場に配属した時に同僚から可愛がられるか」、「本当にこの仕事に興味があるのか」、「当社で定年まで働く覚悟があるのか」等を確認している。
- 面接では、コミュニケーション能力、自分の意見が言えるかどうか、我慢出来る芯の部分の部分がしっかりしているかどうかを見ている。  
面接は多く練習すれば自信を持って臨むことができる。固い表情のまま片言の言葉しか出てこないと評価が難しい所がある。ぜひ練習はして欲しい。
- 「いつからこの会社に入りたいと思ったのか」「就職の意欲がどこから高まってきたのか」を意識し、「この会社に入りたかったので何回も進路指導室に行き、面接の練習をする」、目的・目標を持って臨むことが自信に繋がる。
- 面接の時は素を見せてほしい。企業と生徒の皆さんの相性を見たい。これが面接の目的だ。  
SPIが30点でどうしようかと思った生徒がいたが面接は1番だったので採用した。担任の先生からも勉強は出来ないがやる気だけは1番だと最初から言われていた。

## 高校における現状等

### 【高校】

- 進路指導で心掛けている事は、企業の方とはいつも本音で話す事。うわべだけで取り繕うことが無いように言う事。県内の生徒を大事にし、女子生徒にもやさしい企業を推薦している。  
教員は企業に出向き、試験問題の内容や、面接の状況を聞いたほうが良い。企業担当者は丁寧に、やさしく教えてくれる。
- 先生方の中には集団面接の仕方がわからない先生もいるので、今後講師の方を招き集団面接、グループディスカッションのやり方を進路担当の先生方が学ばないと生徒達が可愛そうだと話がでてくる。
- 他県と比べると我々の認識が甘いのではないかと最近を感じるようになった。  
工業教育の雑誌の中で工業高校の離職率は低く歩留まりが高いとの話がある。  
中学校への広報で専門高校は就職関係で強みがある事を紹介していきたい。  
大手自動車メーカーの人事の人が来た折、どの様な高校生が欲しいのか聞いたところ、工業高校は体力のある子がほしいと言われた。

## その他

### 【企業】

- 本音で話せる関係を築いているつもりだ。人の懐にずかずか入って来られた方がこちらでも本音で言える。これからは県内の採用を増やしていきたい。いろいろな所で学校とのパイプを太くしていきたい。
- 鹿児島県の工業高校の生徒はよく挨拶ができている。体育系でない生徒でも挨拶をする。そのような学校は行って気持ちがいいし、挨拶が一番大事な基本項目だと思う。  
逆に関東圏、特に東京地区の生徒は全く挨拶をしてこない。
- 修学旅行先に企業見学を入れている高校が多いのは県外の高校。挨拶も、必ず1回止まって挨拶するのは県外の工業高校生に多い。  
インターンシップについて、県外の工業高校は就職を意識しており、企業体験を目的とはしていない感じを受ける。
- 県外の生徒は、ジュニアマイスターのゴールド等に非常に多く受験するなど、資格取得に非常に熱心だ。県内の子はほとんど資格を持っていない。
- 学校と企業がもっと密に連携出来れば、採用でも良い結果に結びついていくのではと思う。
- 当社の場合、部活動は基本、必須だ。

## 会議後の学校出席者の感想

### 【高校】

- 他県の場合、優秀な生徒は工業高校を目指すのが、本県の生徒は普通科に行けないから工業科に入る。就職においても人的なパワーはもちろん、学力もある生徒を選別できる大企業に対し、人的なパワーに人材を求める中小企業。学校立地における都市部と郡部の違い等をしっかり認識し、もっと現実的な考察を行うべき。
- 就職する生徒の見方に関して、大企業と中小企業との見解の差が予想以上に大きいものと感じられた。  
本県工業生の評価は低くないことを感じた。ただ、積極性に欠ける点への指摘が聞けた。  
企業側の言葉に対し、教員側の声をもっと伝えるべきであり、産・官・学との連携が今一つ弱いように感じる。  
工業高校の現状維持ではだめである。これからの工業高校の方向性を再度確認し、県内全工業高で取り組むべき行動計画を立案・実施し、早め早めの対策を講じる必要がある。
- 採用選考では、大手と中小で若干の違いはあったが、面接を重視し予期せぬ質問にも相手の目を見て最後まで答え抜いた生徒が採用されることが改めて分かった。今後の面接指導の参考になる。  
企業の方が高校の進路担当と表面的な関係ではなく腹を割った関係を構築したいということも分かった。



【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】

事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦

TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524